

新しい家族の形—同性カップルの家族形成と社会の変化—

本論文の目的は、同性カップルが子どもを育てることがどのように重要な社会的課題となっているのかを明らかにすることだ。世界の約22%の国と地域では同性カップルの権利を保障する制度が存在しているが、2020年の株式会社電通ホームページの調査によると、日本におけるLGBTQ+についての知識はまだ十分ではないという結果が出ている。

本論文は日本と海外の同性婚や子どもを持つ方法に関する比較を行い、代理母出産における経済的に弱い女性の搾取問題や「誰が本当の親なのか」といった代理母が子どもを出産後に引き渡すことを拒否した事件などに焦点を当てていく。また、同性パートナーシップ制度における問題点とその改善法、同性が子どもを持ち、育てることなど様々な視点から検討する。

結果として、生物学的な親子だけでなく、養親、事実婚夫婦、そして同性カップルなど、それぞれが意味のある夫婦であることが明らかになった。その上で家族形成にとって重要なのは、親の生別ではなく無償の愛情と尊重する気持ちであり、異性同性の結婚だけでなく、多様性への理解を進め、職場や教育面、医療などあらゆる分野での課題に取り組むことが求められている。